



2025年11月14日

各 位

会 社 名 ゼビオホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役 諸橋 友良
(コード番号8281 東証プライム)
問合せ先 グループ財務担当執行役員 中村 和彦
(電話番号 03-6870-6008)

2026年3月期第2四半期（中間期）業績予想との実績差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年5月9日に公表しました2026年3月期第2四半期（中間期）（2025年4月1日～2025年9月30日）の業績予想と本日公表の実績との間に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2026年3月期決算において、最近の業績の動向等を踏まえ、本年2025年5月9日の2025年3月期決算発表時に開示した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想と実績との差異（2025年4月1日～2025年9月30日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり連結中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 131,123	百万円 3,663	百万円 3,884	百万円 540	円銭 12.56
実績(B)	124,305	1,975	2,855	166	4.01
増減額(B-A)	△6,818	△1,688	△1,029	△374	
増減率(%)	△5.2	△46.1	△26.5	△69.3	
(参考)前期第2四半期実績 (2025年3月期第2四半期)	125,179	4,106	4,248	2,016	46.12

2. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想と実績との差異の理由

2026年3月期第2四半期（中間期）における業績につきましては、売上高が前回予想131,123百万円に対し124,305百万円（▲6,818百万円、94.8%）にとどまったことが主因となり、営業利益および経常利益が減少いたしました。

売上高の減少は、実質所得の低下に伴う消費マインドの弱含みに加え、猛暑の影響により来店客数が計画を下回った結果、既存店における販売機会が喪失したことが主な要因であります。これに伴い、売上総利益も予想比▲3,625百万円（92.9%）となりました。

一方、販売管理費につきましては、システム開発費や新規出店関連費用の増加はあったものの、経費コントロールを実施した結果、総額では予想比▲1,937百万円（95.9%）と計画範囲内で推移いたしました。その結果、営業利益の減少（▲1,688百万円、53.9%）および経常利益の減少（▲1,029百万円、73.5%）は、主として売上総利益の減少によるものであります。

以上の結果、2026年3月期第2四半期の実績は、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益のいずれも予想を下回り、差異が生じることとなりました。なお、仙台市からの指定管理受託に伴うゼビオアリーナ仙台の建物寄附に係る固定資産処分損は、前回業績予想に織り込み済であります。

3. 当社の連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益

	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	264, 305	7, 223	7, 718	974	22. 66
今回修正予想(B)	253, 534	4, 017	5, 082	236	5. 49
増減額(B-A)	△10, 771	△3, 206	△2, 636	△738	
増減率(%)	△4. 1	△44. 4	△34. 2	△75. 8	
(参考)前期連結実績 (2025年3月期)	250, 603	7, 006	7, 618	971	22. 61

4. 修正の理由

通期の業績予想に関しましては、2026年3月期第2四半期（中間期）における連結業績の差異を主な修正理由とし、下期においても消費環境の急速な回復が不透明であることから、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも前回予想を下回る見込みであるため、2026年3月期の通期連結業績予想を修正いたします。

(注) 上記予想は、当社グループが現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上